

## 4.8 『黒島地域連携企業体』の取り組み

実施テーマ	癒しの島くろしま
-------	----------

連携する地域名	黒島
事業者名1	しま宿南来
事業者名2	民宿あ〜ちゃん
事業者名3	みやよし荘
事業者名4	民宿くろしま
事業者名5	株式会社ルート黒島

### 4.8.1 対象商品とその特徴



島の隅々まで足を運び仕入れた面白い観光スポットを訪ね歩くツアー。海岸の動物の形をした岩や珍しい形をした植物を見ることが出来る。



集落に街灯が少ない黒島は、星空観察には最適な島である。ガイドは、伊古棧橋などの星がよく見える場所に案内し、黒島にまつわる民話や民謡を紹介する。満月には、海に浮かぶ月の道や海ポタルなどを見ることが出来る。



ヤシガニ捕り名人と一緒に海岸やアダンの茂みに入っていくとガサガサと音がする。名人がヤシガニを捕まえるのを見るもよし、自分で捕えるのもよし。貴重な体験と楽しいひと時を過ごすことができる。



黒島の海は、透明度が高くカラフルな魚たちでいっぱい。綺麗なシュノーケリングポイントを知り尽くしている黒島育ちの船長が、その日の波や風により一番良い条件のポイントへ連れて行ってくれる。

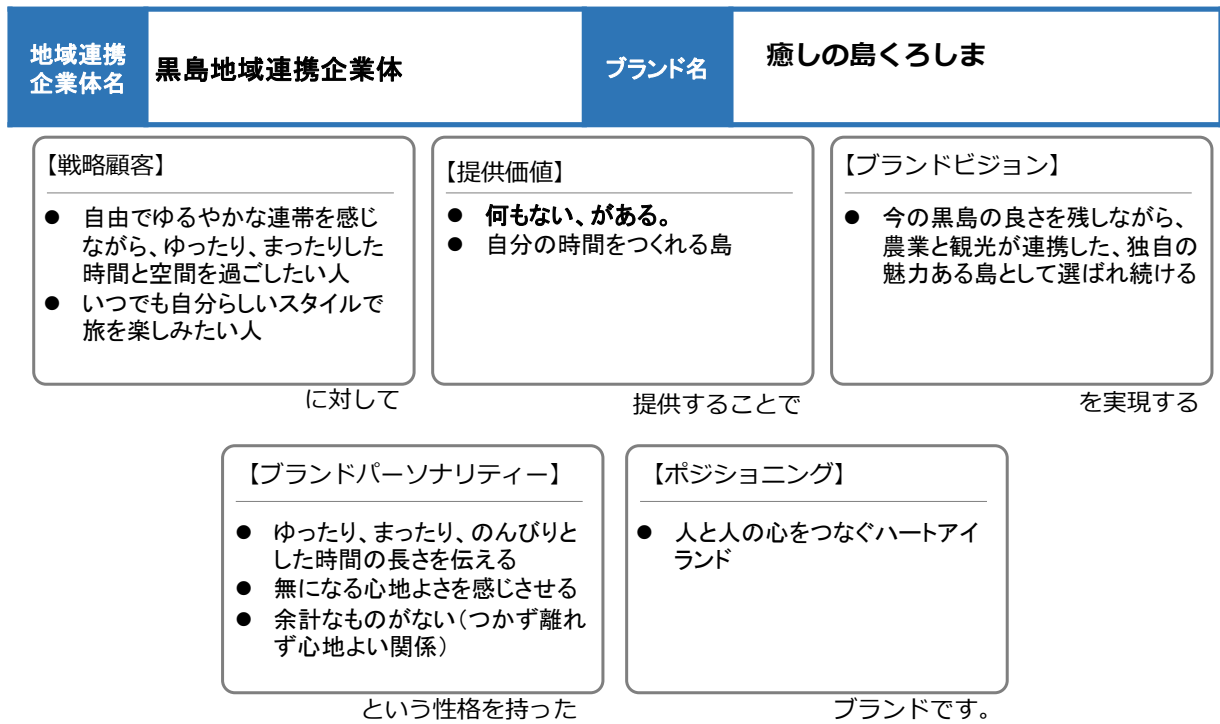


「黒島ブルー」と呼ばれる鮮やかな青色の海を船でゆっくりと海風を感じながら散歩すると色とりどりの小さな魚やたくさんの生物に出会える。ガイドノオジーのおしゃべりで時間が経つのを忘れてしまう。



ブライダル専門の会社がフォトウェディング、リゾート婚、星空婚を企画し、黒島の女将たちを中心としたメンバーが、都会では経験することの出来ない、黒島ならではのおもてなしで、二人の新たな旅ちを応援する。

〈ブランドコンセプト〉



4.8.2 活動概要

〈現地指導会〉外部専門家による指導

指導日	外部専門家	指導内容	活動事業者
10月5日 ～6日	西原行徳氏 /グラムコ(株)	黒島観光に関するツアー体験及び意見交換・助言 ブランドコンセプト策定に関する指導 ブランドコンセプトの制作物等への落とし込みに関する助言	しま宿南来/民宿あ～ちゃん/みやよし荘/ルート黒島

〈ブランディング・販促ツールの作成〉

	内容	活動者
①	ポスター作成（連携体共通）	しま宿南来/民宿あ～ちゃん/みやよし荘/ルート黒島/民宿くろしま
②	パンフレット作成（連携体共通）	
③	のぼり旗制作（連携体共通）	
④	広報用動画作成（連携体共通）	

〈販路開拓活動一覧〉

活動日	活動名	訪問先	活動事業者	活動の目的・テーマ
10月23日	ポスター掲示とパンフレット設置 依頼	大阪府/沖縄居 酒屋	しま宿南来/ル ート黒島	PR 活動
10月24日 ～10月27日	「ツーリズム EXPO ジャパン」 出展	大阪府/インテッ クス大阪	しま宿南来/民 宿あ～ちゃん/ みやよし荘/ル ート黒島	認知度向上 観光客誘致
10月26日	黒島感謝祭開催	大阪府/ 居酒屋	しま宿南来/民 宿あ～ちゃん/ みやよし荘/ル ート黒島	常連客へ取り組み認知向 上および周知依頼
11月15日	ポスター掲示とパンフレット設置 依頼	福岡県/旅行代 理店、わした博 多店	しま宿南来/ル ート黒島	PR 活動
11月16日 ～11月17日	「沖縄県最南端の島々フェア」 出展 黒島感謝祭開催	福岡県/天神地 下街 居酒屋	ルート黒島/し ま宿南来/民宿 あ～ちゃん/民 宿くろしま	PR 活動 常連客へ取り組み認知向 上および周知依頼
11月19日	商談営業訪問 事業展開に関する打ち合わせ	沖縄県那覇市/ 旅行代理店、沖 縄県総合事務 局	しま宿南来/ル ート黒島	旅行代理店への商談営 業訪問 総合事務局 運輸部陸上 交通課との事業展開に関 する打ち合せ
1月18日	黒島感謝祭開催	東京都/ 居酒屋	しま宿南来/民 宿あ～ちゃん/ みやよし荘/ル ート黒島	常連客へ取り組み認知向 上および周知依頼
1月19日	ポスター掲示とパンフレット設置 依頼	東京都/銀座わ したショップ、旅 行代理店	しま宿南来/民 宿あ～ちゃん/ みやよし荘/ル ート黒島	PR 活動 商談営業(送客依頼)

1月20日	小学校訪問	東京都/小学校	しま宿南来/民宿あ～ちゃん/みやよし荘/ルート黒島	PR活動 認知度向上
2月14日	商談営業訪問	東京都/旅行代理店	しま宿南来/ルート黒島	旅行代理店への商談営業訪問
2月15日	「日本百貨店さかば」での意見交換・PR	東京都/日本百貨店さかば	しま宿南来/ルート黒島	黒島及び民宿の紹介 バイヤー・メディア等へのPR
2月15日	民謡及び三線実演によるPR・ポスター掲示とパンフレット設置依頼	東京都/沖縄居酒屋	しま宿南来/ルート黒島	PR活動

〈専門家の招聘〉NPO 法人自然体験学校沖縄校 理事長 若林 伸一氏による指導

指導日	招聘・指導先	指導内容	活動事業者
1月13日	若林 伸一氏	若林氏による講習:「地域資源を活用した体験観光づくり(地域が儲かる観光の仕組み)」、意見交換	しま宿南来/民宿あ～ちゃん/みやよし荘/ルート黒島/民宿くろしま
1月14日		黒島面白観光スポット、黒島内視察	

### 4.8.3 活動報告

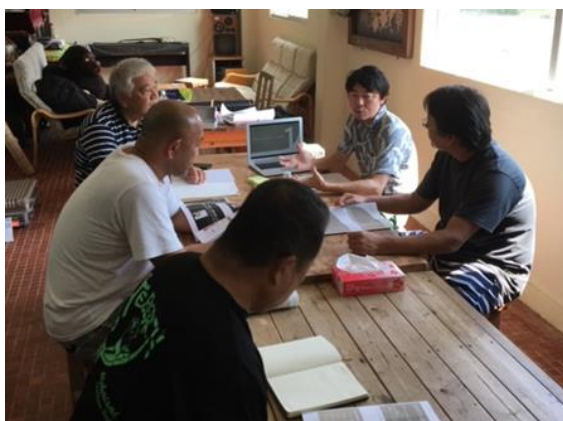
#### (1) 外部専門家による現地指導

##### ①『黒島』のブランディング

活動目的	
ブランディングについての経験値がなく、また連携体の中でも黒島の説明にまとまりがないため、外部専門家の指導のもと、「黒島」のブランディング（黒島とはどういう島か、魅力の整理）をする。	

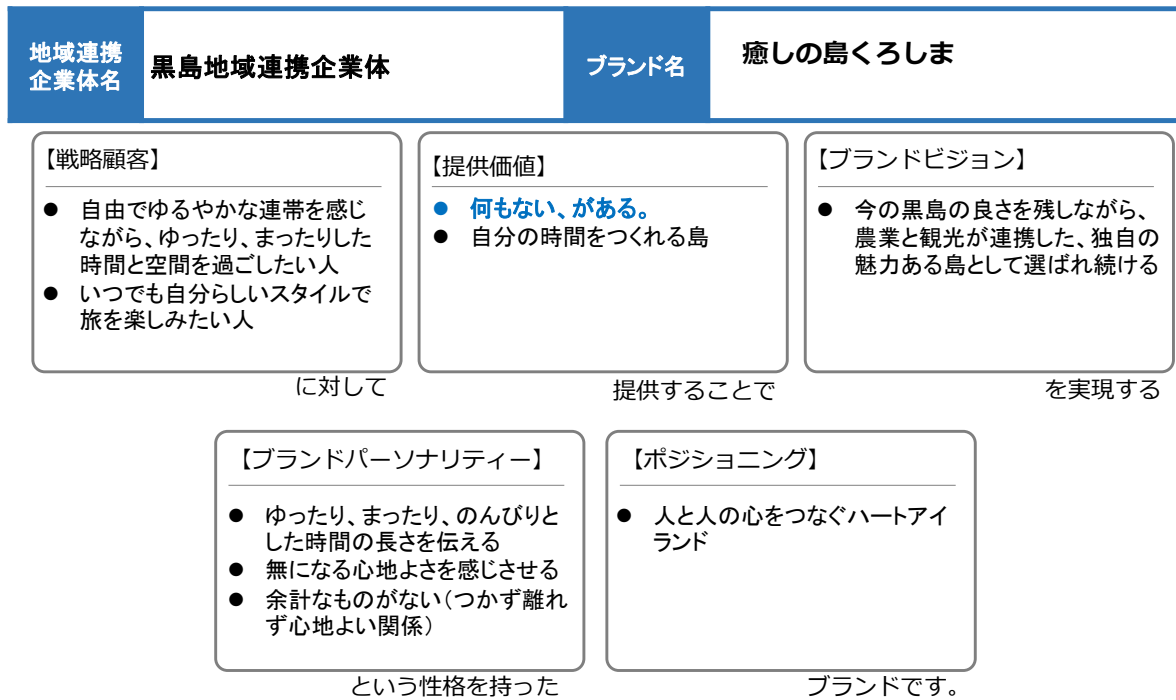
指導日	外部専門家	指導内容
10月5日 ～6日	西原 行徳氏 /グラムコ(株)	<p>ワークショップを交えながら、以下について実践的指導を受けた。</p> <p>①黒島観光に関するツアー体験及び意見交換・助言 ⇒外から見た黒島の魅力、課題並びに、体験ツアーのブラッシュアップ等について、実際に外部専門家が体験して感じたことを踏まえ、指摘いただいた。</p> <p>②ブランドコンセプト策定に関する指導 ⇒これまでは、「島がまるごと観光スポット」と謳っていたが、ディスカッションを行った結果、「何もない、がある」という新たなコンセプトが出来上がった。</p> <p>③ブランドコンセプトの制作物等への落とし込み ⇒②でまとめたブランドコンセプト「何もない、がある」を、現状のポスターにどう反映するかについて意見交換を実施した。</p>

#### 〈現地指導の様子〉



(外部専門家を交えてのディスカッションの様子)

〈ブランドの5センテンスシート〉



「生活貢献視点」、「地域貢献視点」、「現状及びこれからの両面でのパートナー視点」、「誰に共感してもらいたいか」、の4つの項目を基にディスカッションを行い決定した。

民宿に来る客の中には、一日中民宿の前に座って、特別に何をすることもなく過ごしている客がいる。そういった客が何をしに来たのかを考えたときに、「何もない、がある」に辿り着いた。

成果と気づき
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 各々に黒島のイメージを述べてもらい、それを全員で検討した結果、「何もない、がある」というブランドコンセプト（キャッチコピー）を生み出すことが出来た。</li> <li>● 「何もない」は万人に刺さるものではないため、ターゲットは選ぶべきと感じている。</li> <li>● 台風による開催延期で、ツーリズム EXPO での配布販促物に間に合わせる事が出来なかったが、今後、ブランドコンセプトをポスターやパンフレット等の広告物に取り入れていきたい。</li> </ul>

(2) ブランディングツールの作成

① PR ツール(ポスター・のぼり旗・パンフレット)の作成

活動目的
<p>「ツーリズム EXPO ジャパン」およびその他のイベント等への出展に合わせ、黒島地域連携企業体の活動周知のため、パンフレットやポスター等の PR ツール類の作成を行う。</p>

〈ポスター〉

【修正前】



【修正後】



現地指導でまとめたブランドコンセプト「何もない、がある」を配置  
 沖縄県の島であり、知名度がある「竹富町」も記載

〈パンフレット (A4 3つ折り)〉

【外側】



【内側】



〈のぼり旗〉



成果と気付き

- 作成した PR ツールは「ツーリズム EXPO ジャパン」の他、各イベントや県外の沖縄料理店・居酒屋、旅行代理店等へ配布し、黒島の認知向上を図った。

(3) 販路開拓活動

① 「ツーリズム EXPO ジャパン」出展

活動目的

世界 100 ヶ国以上の国と地域が集まる「ツーリズム EXPO ジャパン」展示商談会にて、黒島の認知向上並びに観光客の誘致を図るため、パンフレット・ポスター・のぼり等の PR ツールを活用して情報発信を行う。

〈活動の内容〉

	活動日	活動名	訪問先	活動事業者	活動内容
①	10月24日～27日 24、25日：業界関係者向け 26、27日：一般来場者向け	「ツーリズム EXPO ジャパン」出展	大阪府/インテックス大阪	しま宿南来/民宿あ～ちゃん /みやよし荘/ルート黒島	黒島の認知度向上 観光客誘致

〈活動の様子〉



(左：農泊ブース内黒島コーナー、 右：竹富町 PR ブースでの三線演奏による PR)

農泊ブース内に出展し、ポスターの掲示、パンフレット配布等を行った（パンフレット配布：3,000枚）。  
一般来場日には三線演奏による客寄せを行った。



### 成果と気付き

- 各都道府県の観光に賭ける力の入れ方や展示ブースの盛大さに驚くと共に、黒島の認知度の低さを感じた。
- 残念なことに黒島がどこにあるか、また、どんな島かを知っている人は少なかった。もし、できることなら農泊のブースではなく、他の地方公共団体のように県レベルでまとまったブース内で黒島を紹介できていたらと思う。
- 集客の方法については、何らかの工夫を加えるべきだったと思う。例を挙げれば、パンフレット配布時の法被着用や、小さくとも印象深い小物を配布する等である。
- 今回、同じブース内にいたNPO 法人自然体験学校理事長から、体験型の商品売るためにはターゲット、目的、ガイド資格の有無及び安全面の確認を行わなければならないことを教わった。また、旅行代理店の方からは関東方面における旅行者の傾向について話を聞くことができたので、今後の展開に活かしたい。
- 多くの人に、「牛の島」というイメージとは違う黒島のイメージ、「何もない、がある」（豊かな自然の中でのんびり過ごす事ができるということ）並びにそのサポートをルート黒島が行っているということ、アピールできたと思う。
- 黒島に興味を持っているというお客様のお話を直接聞いたこと、以前、黒島を訪れた事のある方と再会し黒島の印象を聞いたことも自分の中で今後に生かすことが出来ると感じている。今後は、様々なツールを使用して黒島の情報の発信に力を入れていきたい。

## ②「沖縄県最南端の島々フェア」出展

### 活動目的

竹富町観光協会主催『日本最南端の島々フェア』にて黒島の認知向上並びに観光客の誘致を図るため、情報発信を行う。

### 〈活動の内容〉

	活動日	活動名	訪問先	活動事業者	活動内容
①	11月16日 ～17日	「沖縄県最南端の島々フェア」出展	福岡県/天神 地下街	ルート黒島/しま宿南来/民宿 あ～ちゃん/民宿くろしま	黒島の認知度向上 観光客誘致

### 〈活動の様子〉



(パンフレット配布: 1,000 枚)

成果と気付き

- パンフレット配布時には、黒島を印象付ける服装や小物を一緒に配ることが出来たら、より黒島をアピールできたのではないかと思った。
- 専用のブースを設け、黒島を紹介する動画を流すことも宣伝方法の一つとして必要だと感じた。

③ 黒島感謝祭

活動目的

黒島のリピーターに対して新しい取り組みを紹介し、口コミによる拡散を図るため、各民宿常連客を中心とした黒島ファンとの交流イベントを開催する。

〈活動の内容〉

	活動日	活動名	訪問先	活動事業者	活動内容
①	10月26日	黒島感謝祭	大阪府/居酒屋 (集客：約30名)	しま宿南来/民宿あ〜ちゃん /みやよし荘/ルート黒島	パンフレットの配布（新しい 取り組み紹介）
②	11月16日		福岡県/居酒屋 (集客：約15名)	しま宿南来/民宿あ〜ちゃん /民宿くろしま/ルート黒島	民宿の夜の雰囲気演出の為の 三線・民謡イベント
③	1月17日		東京都/居酒屋 (集客：約100名)	しま宿南来/民宿あ〜ちゃん /みやよし荘/ルート黒島	観光ツアーの案内

〈活動の様子〉



(左：大阪開催、 中央：福岡開催、 右：東京開催) ※一部写真は画質を落として掲載

成果と気付き

大阪開催

- 常連客に、島に新しい何かが始まっていることが伝わった。一方で、黒島には変わらないでほしいという意見も見られ、連携体としてどう活動していくのか、話し合う必要性も感じた。

福岡開催

- 観光ツアーの紹介などをするも、常連客は「何もしない」点に黒島の良さを感じており、「何もない、がある」などのコンセプトの浸透に向け、活動内容をブラッシュアップしていく必要性を感じた。

東京開催

- 来場者には黒島を訪問したきっかけ、黒島の魅力について等のアンケートをお願いしており、結果を今後の活動に活かしたいと思う。

④ 訪問営業を兼ねた、広告宣伝活動(ポスター掲示並びにパンフレット設置依頼、黒島の紹介)

活動目的	
<p>黒島の認知度向上を図るため、沖縄に所縁のある県外の飲食店及び旅行代理店等を訪問し、ポスターの掲示並びにパンフレットの設置を依頼する。</p> <p>また、小学校（東京都）に通う外国大使館の子弟や父兄に PR 活動を行い、黒島の認知向上を図る。</p>	

〈活動の内容〉

	活動日	活動名	訪問先	活動事業者	活動内容
①	10月23日	広告宣伝・訪問営業	大阪府/ 沖縄料理店 1店	しま宿南来/ルート黒島	ポスター掲示とパンフレット設置依頼 観光ツアーの案内 黒島への送客の依頼 民謡及び三線実演による PR
②	11月16日		福岡県/ 沖縄料理店 1店 アンテナショップ 1店 旅行代理店 1社	しま宿南来/ルート黒島	
③	1月19日		東京都/ 沖縄料理店 1店 アンテナショップ 1店 旅行代理店 1社 小学校 1校	しま宿南来/民宿あ〜ちゃん/ みやよし荘/ルート黒島	
④	2月15日		東京都/ 沖縄料理店 1店 旅行代理店 1社	しま宿南来/ルート黒島	
⑤	2月14日		商談（再訪）	東京都/ 旅行代理店(※) 1社	

〈活動の様子〉



(沖縄料理店での民謡及び三線実演による PR)

成果と気付き

沖縄料理店

- 店側は、ポスターの掲示並びにパンフレットを設置することを快く引き受けてくれた。
- 舞台上で三線を弾き沖縄民謡や黒島にまつわる民謡を披露し、店の従業員やお客さんに黒島を紹介できた。
- 体験プログラム（ハートアイランドの結婚式）を希望する方に会うことができた。今後、具体的に話を進めていく。

旅行代理店

- 団体客の送客で定評のある旅行代理店を訪問し、弊社の体験プログラムを紹介し、黒島を観光コースとして取り扱ってくれるように依頼をしたところ検討する旨の返事をいただいた。
- 旅行代理店側からは、中国の裕福層を対象にした観光メニュー作りを依頼されたため、再訪し、中国の裕福層に向けた観光プランについて打ち合わせた。詳細な観光プラン及びパンフレットの作成を求められており、検討していく。

小学校

- 学校側から、大使館の子弟や父兄に対し離島である黒島を紹介して欲しいとの依頼があり、外国語学級の子供たちに黒島の動画、黒島の民謡にまつわる紙芝居、三味線や笛などを奏でて黒島を紹介することができた。
- インバウンドを視野に入れた場合には、このような活動も必要だと感じた。

⑤ 商談(訪問営業)、商談及び意見交換・PR

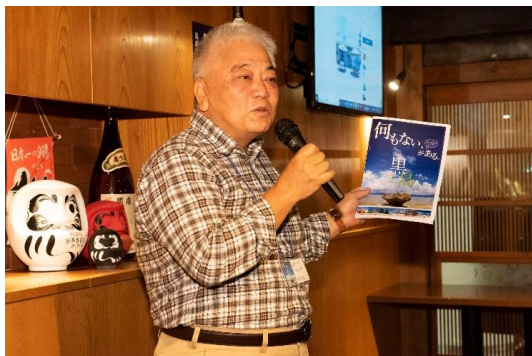
活動目的

『日本百貨店さかば』において、バイヤーとの商談及び意見交換・PRを行う。

〈活動の内容〉

	活動日	活動名	訪問先	活動事業者	活動内容
①	2月15日	『日本百貨店さかば』での商談及び意見交換・PR	東京都/日本百貨店さかば	しま宿南来/ルート黒島	黒島及び民宿の紹介 バイヤー・メディア等へのPR

〈活動の様子〉



成果と気付き

- 沖縄本島や石垣島を知る人は多かったが黒島を知る人は少なかった。今後、どのように黒島を紹介していくのか、また、売り出していくのか竹富町や竹富町観光協会とも連携の必要性を感じた。

⑥ 商談(訪問営業)、沖縄総合事務局への訪問

活動目的

県内の旅行代理店への販路拡大のため、訪問営業を行う。また、体験プログラムの販売拡大に向けて、送迎に関する課題を解消するため、沖縄総合事務局と相談を行う。

〈活動の内容〉

	活動日	活動名	訪問先	活動事業者	活動内容
①	11月19日	商談営業訪問	那覇市/旅行代理店 1社	しま宿南来/ ルート黒島	商談営業訪問
②	11月19日	事業展開に関する打ち合わせ	那覇市/沖縄総合事務局	しま宿南来/ ルート黒島	体験プログラム参加の事業展開に必要な申請書類等についての打合せ

成果と気付き

旅行代理店

- 体験プログラム等について送客を依頼した。八重山の離島は観光スポットとして有名であり、特に黒島は観光において未発達な部分があるが、将来性のある島だと考えているとのことで、協力いただける旨の話を伺うことが出来た。

沖縄総合事務局

- 旅行社や船会社が体験プログラムを販売する場合に、スタート地点までバスやタクシーでの送迎依頼がある。その実施に向けての問題点、基準及び申請書類等についてアドバイスを受けた。

(4) 専門家の招聘

① NPO 法人自然体験学校沖縄校 若林 伸一氏による指導

活動目的

黒島地域連携企業体は、民宿主の連携体で、それぞれ観光体験メニューを企画販売してきた。しかし、島外・県外と商談をする中で、黒島地域の魅力の発信や、受け入れ体制に課題があることが分かった。

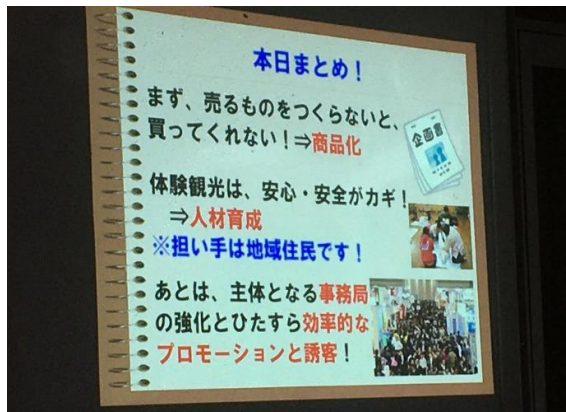
そこで、現在ある体験メニューの改善や、今後、強化していきたい団体客の誘客に向けて、必要不可欠な要素や専門知識の修得のため、体験観光や修学旅行の誘客に実績のある、NPO 法人自然体験学校の若林氏を講師として招聘し指導を受ける。

〈活動の内容〉

指導日	招聘・指導先	指導内容	活動事業者
1月13日	NPO 法人自然体験学校/若林 伸一氏	若林氏による講習；『地域資源を活用した体験観光づくり（地域が儲かる観光の仕組み）』、意見交換	しま宿南来/民宿 あ〜ちゃん/みやよし荘/ルート黒島/民宿くろしま
1月14日		黒島面白観光スポット、黒島内視察	

若林 伸一 氏：NPO 法人自然体験学校 理事長。沖縄県南部地域に拠点を置き、沖縄南部広域観光協会とも連携し、八重瀬町を中心に沖縄南部地域の魅力を広くPRし、この地域のファンを増やして、交流人口を増やす活動をしている。また、沖縄においては、3年以上、延べ4万人以上の修学旅行の誘致も行っており、まさに団体客や修学旅行誘致のスペシャリストである。

〈活動の様子〉



講師の若林氏とは、「ツーリズム EXPO ジャパン」出展の際、隣のブースで農泊の誘致活動をしていたことがきっかけで出会った。いくつか言葉を交わすうちに、沖縄県の八重瀬町で事務所を構え、修学旅行及び団体旅行の誘致活動を行っていることが分かり、また、「観光まちづくりで地域活性化（儲ける地域づくり）」でも実績があることが分かり、黒島でセミナーの開催を依頼したところ快く引き受けて頂くことができた。

成果と気付き

- 黒島地域連携企業体が、今後、観光体験や団体客・修学旅行等の誘致を視野に入れて活動する中で若林氏の話は色々な面で参考になった。中でも、自然体験、教育民泊、平和学習等をプログラム化して、地域住民をインストラクター化し、地域の課題を解決して、観光活性化につなげ地域住民に還元するシステムについて、黒島でも実現することが出来れば、観光産業を畜産業に負けなくらいの産業に育てることが出来ると思った。
- 講義の中で、体験プログラムを作り出す秘訣として、地域の観光の芽探しをし、地域と都市との交流（ふれあい）や人材の育成、地域の観光資源の調査・研究を実施し、自然を舞台としたすべての体験活動を促進することを通じて地域のまちづくりを目指すことが大事だと話されていた。また、安全安心の重要性や、人材育成の大切さに触れられていた。黒島においては、島の老人たちが観光資源になれるのではないかと、また、安全安心教育については早急に取り組むべきと思った。

- 体験プログラムの造成でたくさん参考になる話を聴くことができた。例えば、「豊かな自然の中に暮らしている人たちが、その自然で遊ぶことが出来ていない。だから人を呼んで遊ばせる考えもなく、技術も持っていない。全国にはまだすばらしい資源があるが、これに気づかず活用方法もわからず眠っている。ただ、地域活性化に役立てようと考えても、地域の自然体験を提供していくための指導者が不足しているのが現状」という。まさに、「灯台下暗し」で黒島地域連携企業体の弱いところを指摘されたような気がした。今後、当連携体が体験プログラムや、多くの修学旅行者及び団体客を誘致していく上で、是非とも、今一度立ち止まって、黒島という地域を再点検しなければならないと感じた。
- 個人の観光客、修学旅行及び団体を誘致するには、商品である体験プログラムの造成の仕方や、主体となる事務局の強化とひたすら効率的なプロモーションと誘客活動が重要であると話されていた。現在、黒島地域連携企業体はいくつかの体験プログラムと大都市での誘客活動を行っているが、今一度チェックすべきかも知れないと感じた。
- 自然体験学校（修学旅行）で、生徒たちに「民泊体験」、「自然体験」及び「平和学習」の3分野に分かれているノート『沖縄体験ガイドブック』を配っているという話を聞き、興味深く感じた。きっちりとその時に感じたことをノートに記すことで記憶に留まることが多いという。今後の修学旅行者向け商品等で参考にしたい。
- 観光客を地域ぐるみで迎えることの大切さと、そのための人材育成に力を注ぐべきだと話されていたことが、その通りだと思い印象に残った。

#### 4.8.4 支援の総括

- 黒島は竹富町にあり、石垣港からフェリーで約30分の位置にある。1日5～6往復運航しているため、日帰り観光が主流となっており、宿泊や滞在型観光には成長課題があった。民宿4軒と、窓口機能を果たす（株）ルート黒島が連携し、予約や問い合わせ窓口を一本化し、各民宿が主・副担当と役割を分担する体制を組んだ。また4軒が連携することで、1軒では困難であった団体客の受け入れが可能となり、事業展開に向け販路開拓活動に取り組んだ。
- まず外部専門家を招き、黒島および事業活動におけるコンセプト構築を行った。ワークショップを通じて連携体メンバーそれぞれの想いを書き出したことで、お互いに島をどう考えているのか、どういう島であってほしいのかといったことが共有でき、コンセンサスの形成に大きく寄与した。また、黒島を長年訪れている常連客の存在の大きさに改めて気づき、彼らが「ゆったり、まったり、のんびり」過ごしていることが、黒島の最大の魅力であることに改めて気付いた。「何もない、がある」というキャッチフレーズが出来たことで、共通の想いで事業に取り組むようになった。
- 全国に『黒島』は、有人・無人島を含めて26島存在する。連携体にとっての黒島は竹富町をさすが、島外や他県の人には沖縄県に所在していることさえ伝わらない。そのため、コンセプト設定後は、沖縄県や竹富町の黒島であることを付け加える等、黒島の伝え方にも気を配った。
- コンセプトを設定し、営業を実施して島外の意見を聞いたことで、既存の体験プログラムについてもサービス品質の向上に向けた意見が取り交わされるようになった。また、若い世代にはなじみのない“民宿”の在り方や、来島した客に満足してもらえるような、受け入れ体制についての取り組みも始まっている。「何もない、がある」をコンセプトに展開する、今後の黒島に期待したい。